第4講

攻める志望理由書の思考法② 研究計画

チャプター1 リサーチクエスチョン

チャプター2 リサーチデザイン① 研究のプロセス

チャプター3 リサーチデザイン② 理論の発展段階

チャプター4 リサーチデザイン③ 論文の探し方・読み方

答案例を見てみよう

○ 政治学科志望者の答案例

　外国人労働者の増加とともに、共生するコミュニティをどう形成するかという課題を、各自治体が抱えている現状にある。外国人住民や労働者への明確な方針を持てない状況の日本において、対症療法すらもままならない現状もあるのは了解した上で、その立場からこの問題をどう解決すべきかを模索する場として、貴学政治学科が相応しいと判断し、志望するに至っている。

　この気づきを得た最大の契機は、県が主催するホームステイプログラムへの応募である。ここ数年、私が住む地域近辺にも外国人が定住するようになり、外国人とのコミュニティ形成が必要となる局面にあると考え、私は彼ら彼女らとより良い共生社会を目指すために移民大国であるアメリカの地に留学しようとした事があり、その最終面接でのやり取りが深く印象に残っている。その際、面接官からある国の移民政策について意見を求められ、私は移民拒否政策は反対であると主張した。しかし、面接官から「君は『国境に壁のある街の住民』についてはどのように考えるのか」と問われ、彼女から国境壁建設が多数に支持されている現実を突きつけられた。私は答えに窮した。いま改めて振り返ると、移民とともに生きる住民の視点を欠く政策立案など、民主主義を尊重する者としてあり得ない。私は安物の正義感とメディアの報道に踊らされ、その地に生きる住民を取り巻くシステムや、そ

の根底にある価値観を覗き込むことがなかった。そのとき、私自身を恥じた。

　国境壁に対する反応は、移民優遇と白人労働者の軽視という政策に対する住民の不満が根底にあるという。これを私の住む地域の外国人労働者と住民に置き換えて推論を展開すると、前者を哀れ慈しむだけでは水面下に広がる問題をすくい上げることはできないということだといえる。その土地に住まう人々には文脈、歴史的背景が横たわっている。その環境の中に、外国人労働者が入り込むという構図である。そうしたステークホルダーが混在する中で、いかにともに幸せなコミュニティをいかに形成するかということを、丁寧に文脈を紐解きながら政策に反映しなければならないということである。ゆえに、私はこのコミュニティと地域社会、行政の関わり方の３つの関係を俯瞰する事こそが共生社会への鍵となると考えた。

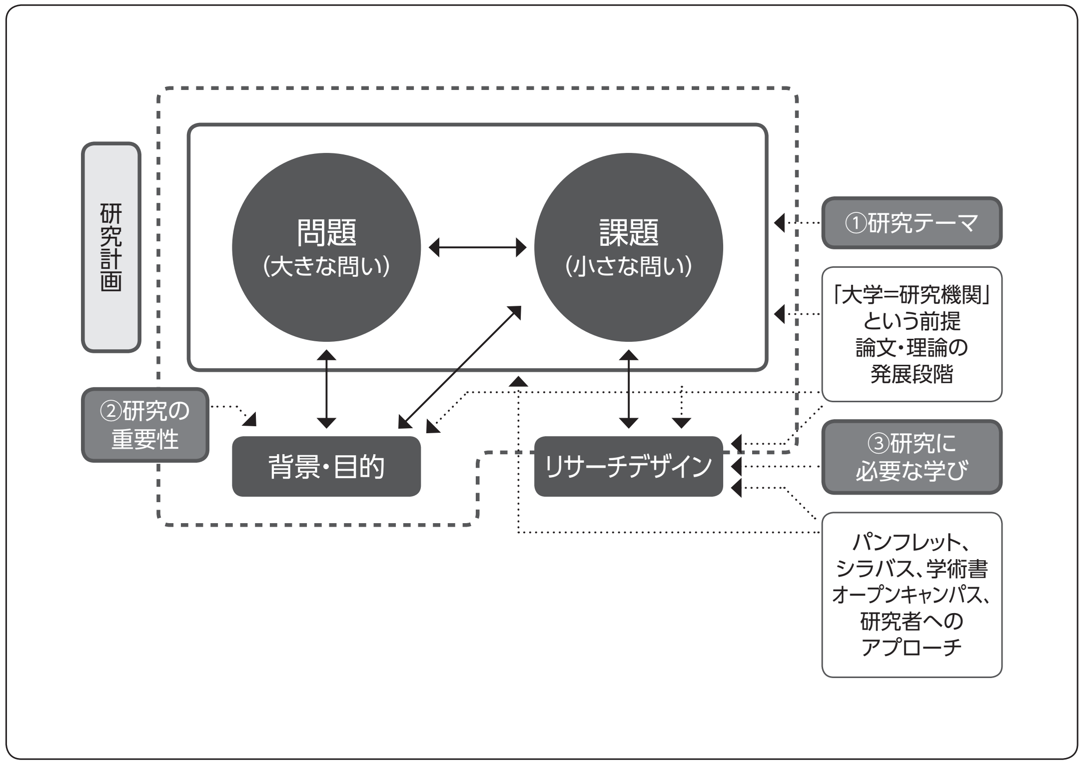
　ただ、言うは易しとはまさにこのことであり、エスニックコミュニティが地元社会の住民として受け入れられるのは難しい。例えば、〇〇市〇〇地区では外国人たちと長年に渡りその文化を共有してきたといわれ、上記の好例と言われている。近年ヘイトスピーチによるデモが押し寄せたそうだが、地元住民らがデモ隊と対峙し生活の場を守ったことは地方自治体とエスニックコミュニティ及び地元住民の三者が良好で堅固な結びつきを持っている証拠である。しかしながら、現在では他国からの流入者も増え、新住民が流入するようになった。昔なら町を歩けば困窮状態が可視化され、コミュニティの中で互助できたものの、開発によって人々は分断され、問題が見えなくなっている。地域全体で一体感が醸成されていたのは昔の話であり、今では孤立状態になっているということだ。

　こうした分断と排除の論理が働き、マイノリティとなりがちな外国人労働者に対して、セーフティネットを地域で構築することこそ、私が貴学で研究として取り組みたいことである。特に、前述した通りエスニックコミュニティすら分断されるという事態があることを踏まえ、外国人労働者が置かれる状況を推察すると、深刻な問題と化していることが容易に想像できる。外国人労働者と住民の共生を目指していくには、このコミュニティの分断という事態をどう超えるのかが大きな課題となる。この課題観を外国人労働者と地域住民によってどう乗り越えるのかを模索し、行政学・政治学・社会学的視点で捉え直す試みを、貴学で行いたいと考えている。具体的にはさまざまなエスニックコミュニティを観察・記述し、地元社会と行政の関わり方を探るとと

もに、外国人と共生する良いコミュニティのあり方を学びとりたい。
　私は、外国人労働者を地元社会に所属させながらもそのアイデンティティを守る方法、特に行政活動にどう反映させるのかの方法を模索したい。私が住む県には２万人の外国人労働者が存在する。特に、農漁村部での深刻な人手不足に頭を悩ませている。他方、このコロナ禍において職を失う外国人労働者も生じ、不可抗力によって生活が不安定になり、彼ら彼女らの生活基盤が脆弱であることが露呈する事態となったが、第一次産業の労働者は不足したままである。もちろん行政が第一次産業保護という名目で農林水産業従事者に措置を講じることも重要といえる。しかし、それ以上に大事なのは彼ら彼女らを「地域でともに生きる者」として、コミュニティの一員として支え合う関係性を構築することなのではないか。私は、外国人労働者と一括りに考えるのではなく、一人一人のアイデンティティを大切にしながら共生の道を探っていきたい。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



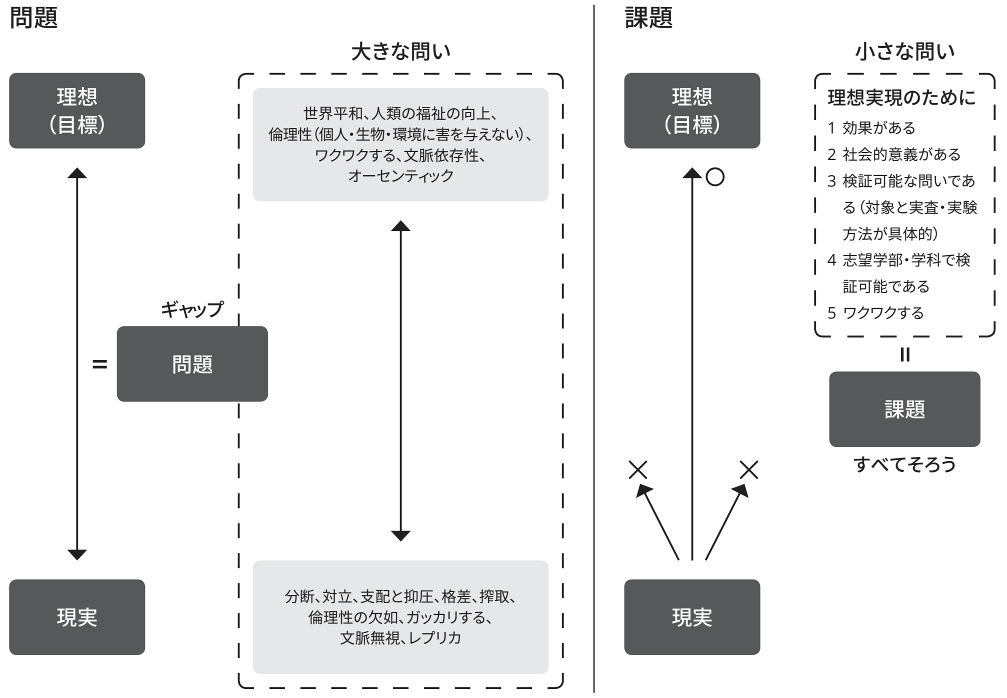
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター1

リサーチクエスチョン

○大きな問いと小さな問い



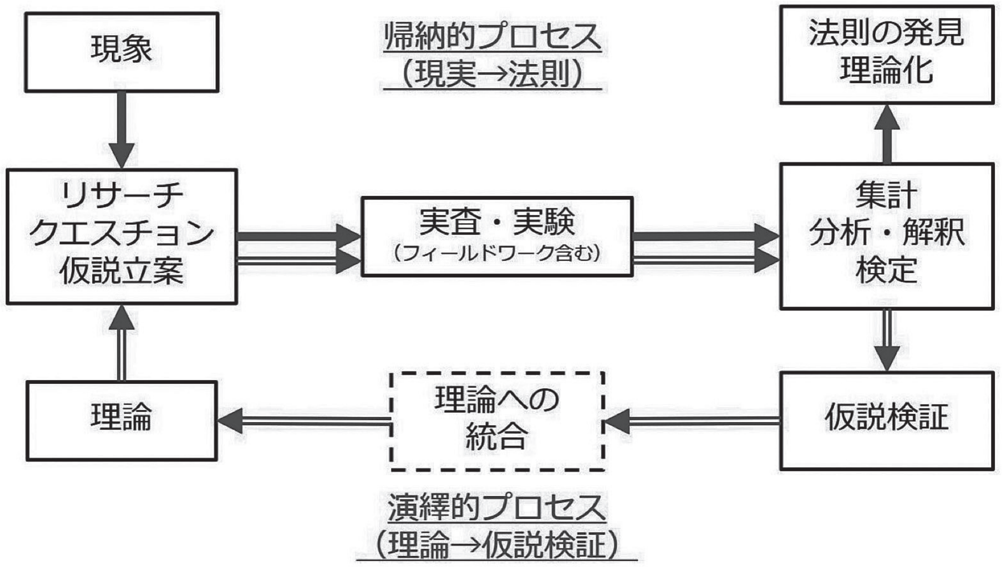
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

リサーチデザイン① 研究のプロセス

○研究のフロー



岩永 雅也、大塚 雄作、高橋 一男著『社会調査の基礎』放送大学教育振興会（2003）をもとに加筆・修正

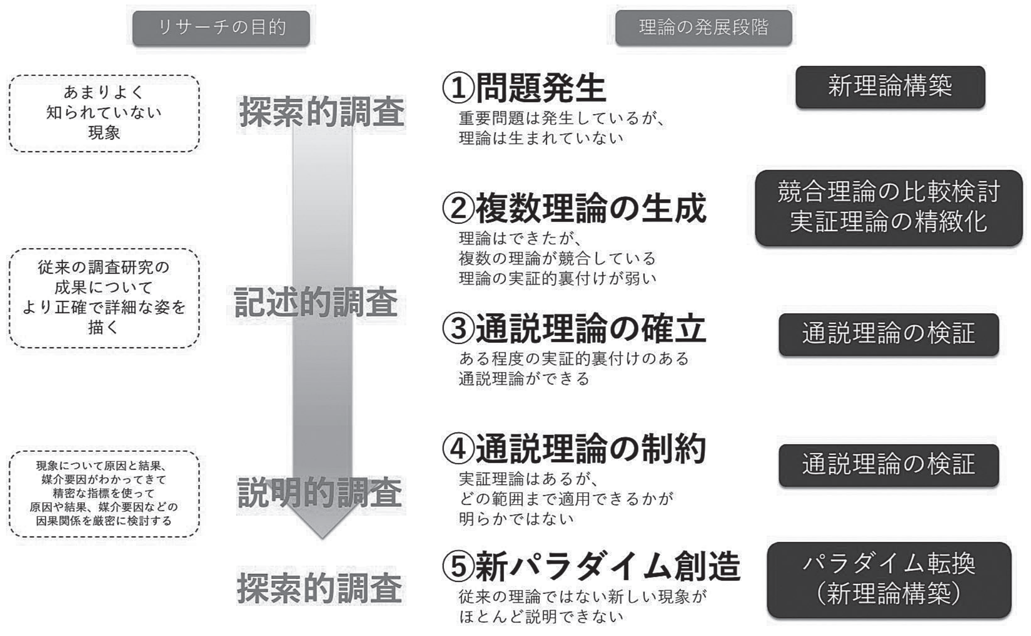
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

リサーチデザイン② 理論の発展段階

○リサーチの目的と理論の発展段階



田村正紀『リサーチ・デザイン』第1章リサーチ・デザインとは何か,P12、田尾・若林『組織調査ガイドブック』P29-31　を参考

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

リサーチデザイン③ 論文の探し方・読み方

○CiNii

生徒メモ欄

教員記入欄